

はじめに

本書は、宮城県東松島市大曲浜地区に伝わる大曲浜獅子舞（市指定無形民俗文化財）で使われてきた獅子頭の修理報告である。2011年3月11日に起こった東日本大震災によって、大曲浜地区は壊滅的な被害を受けた。獅子舞を奉納する玉造神社と神社内に保管されていた獅子頭や道具類は津波で流され、保存会会長（当時）をはじめ保存会会員4名の命が奪われた。

この度、修理を行った獅子頭は、大曲浜獅子舞の獅子頭の中でも最も古いものを思われる。被災2週間後の2011年3月26日に、玉造神社より数百メートル離れた大曲浜保育所前にて、保存会会員の菅原満氏が瓦礫の中より発見したが、被災の混乱の中、すぐに持ち帰ることができず、しばらくの間、バスタブの中で雨風を凌いだ後、4月に入って持ち帰られ、大切に保管されていた。

獅子頭の修理は、富山大学芸術文化学部林研究室において、林暁先生と大学院生3名が行い、島添と学部生1名が修理記録をとった。修理費用は日本財団「地域伝統芸能復興基金」による。

2012年11月現在、大曲浜の人々は数箇所に分かれて仮設住宅で日々の生活を送っている。大曲浜は居住禁止地区となったため、新しい土地への集団移住が計画されている。一日も早いコミュニティの復活と大曲浜獅子舞保存会の活躍を祈らずにはられない。

2012年11月

富山大学芸術文化学部

林 暁 研究室

島添貴美子研究室



瓦礫から発見された時の獅子頭
(2011年3月26日菅原満氏撮影・提供)

獅子頭修理

林 暁（富山大学芸術文化学部教授）

田村亜佑美（富山大学大学院芸術文化学研究科芸術文化学専攻 2 年）

呉 帝彦（富山大学大学院芸術文化学研究科芸術文化学専攻 2 年）

柳瀬 香奈（富山大学大学院芸術文化学研究科芸術文化学専攻 1 年）

顔料分析

長柄 毅一（富山大学芸術文化学部准教授）

調査・記録

島添貴美子（富山大学芸術文化学部准教授）

丸山紗和子（富山大学芸術文化学部文化マネジメントコース 4 年）

協力：清水 隆文（富山大学芸術文化学部文化マネジメントコース 4 年）

調査・修理協力（敬称略）

赤澤 靖章（東松島市教育委員会生涯学習課文化財班長）

大曲浜獅子舞保存会

日本財団

目次

はじめに	1
修理の概要 (林 暁)	4
修理の経緯 (島添貴美子)	6
獅子頭に使用されていた顔料の分析 (長柄 毅一)	8
修理記録	10
獅子頭の修理を終えて	34



修理後の獅子頭

修理の概要

林 暁

修理の指針

宮城県東松島市大曲浜地区において、玉造神社秋季大祭と正月行事に供される獅子頭の破損部位の修復、また表面状態の現状保存を旨とする剥落防止処理を行った。

同獅子頭は平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の折に津波に流される被害に遭い、欠損・破損等の重大な被害を受けた。この獅子頭が、地元の方々の手によって大切に受け継がれてきた祭具であることは、過去の修理の遍歴から推察する事ができ、また、「獅子頭の被災状況をそのままにすることによって、この度の震災を深く心に留めたい」という保存会の希望を受け、ある程度、原形を復元した上で震災を受けた表面の破損は現状をそのまま保存し、それ以上の剥落や崩壊を防ぐ手建てを講じる事とした。文化財の修復としては例外的な方法をとったのは、こうした事情による。

同獅子頭は、震災以前からの破損や修理の跡が多々見られる上、被災によって、頭部の形が崩れていた。また、海水に浸かった後、乾燥したと考えられる木地の腐食、歪みが生じていた。そのため、表面塗装の保存、頭部の整形、破損箇所の修復の三つの作業を中心に行った。

表面塗装の保存

同獅子頭は幾度かの修理が過去に施されている。当初は全体が漆塗りであったが、現状は表面に合成樹脂塗料が複数回塗布されており、この塗装の肌合いや色は長年親しまれて来たものと考えられる。震災で海水に浸かったために上に塗布してある塗料の亀裂や剥落が見られるため、クリーニング後、低粘度のエポキシ樹脂を注射器などを用いて充填し、剥落を防止した。また、表面に着いた接着用の樹脂は乾く前に全て拭き取り、現状の色艶を保つようにした。

頭部の整形

頭部は、右側面から上顎部にかけての破損がひどく、そのために、全体に歪みが生じていた。そのため、点付けで整形していく方法では整形することが不可能であった。試行錯誤の末、最終的には、分解できる部分は一旦分解してから、整形を行った。また、木地が腐食しているため、通常の接着剤で接着できなかったため、エポキシ樹脂にフェノールマイクロバルーンを混合したパテ状の接着剤を用いた。

破損箇所の修復

同獅子頭は海水に浸かったものと考えられるので、塩分により漆が乾かなくなっている

可能性があった。しかし、表面の整形には、漆による修復が可能なので、エポキシ樹脂とともに、漆コクソによる充填も行った。

以前の修理に用いられたと見られる鉄釘は、海水の影響で錆びており、また今後急激に錆が進むと考えられるので除去し、穴は漆コクソ或いはエポキシ樹脂で充填した。

鼻部の欠損部分は、新たに木地を埋め込んで、ある程度整形した上で、漆コクソで充填・接着し、原形を復元した。

頭部内側は以前の修理によって鉄板が打ち付けられており、鉄板と木地の間に海砂が無数に入り込んでいた。そこで、最後にエポキシ樹脂を鉄板と木地の間に注入することによって砂の流出を止めた。

その他の特記事項

修理の過程において、右目表面の合成樹脂塗料の一部が剥落し、本来、この獅子頭の目には金箔がはられていたことが判明した。そのため、文化財としての価値を考慮し、あえて、剥落した合成樹脂塗料を接着していない。

下顎部に取り付けられていたベニヤ板は、元々、二つに割れた下顎部を接着するために取り付けられていたと考えられる。今回の修理で下顎部の割れは樹脂によって接着したため、ベニヤ板の必要性がなくなったことから、取り付けなかった。

欠損した右耳は、文化財修復の手法にのっとり、左耳を参考に復元した。

修理の経緯

島添貴美子

大曲浜獅子舞保存会との出会い

「今こそ被災地へ行って被災した方々の声を聞くべきだ」と英断を下された小島美子先生（国立歴史民俗博物館名誉教授）を筆頭に、星野紘先生（東京文化財研究所名誉研究員）、上西律子先生（日本民俗音楽学会理事）とともに、福島、宮城、岩手の被災地の芸能保存会の方々を訪問したのは、東日本大震災から4ヵ月後の2011年7月のことだった。

宮城県内は、小谷竜介氏（宮城県教育庁文化財保護課）にご案内いただき、まず訪れたのは、東松島市大曲だった。7月20日朝より、仙台からレンタカーで、松島海岸から野蒜地区を経由し、大曲浜地区の入り口で車を止める。被災地特有の砂埃が、台風の強風でもうもうと舞い上がっていたのを今でも覚えている。大曲浜獅子舞保存会会長の伊藤康廣氏と副会長の相澤宏智氏、そして、東松島市教育委員会の赤澤靖章氏の案内で車を乗り換えて、大曲浜地区内に入った。集落は、全体が冠水し、道路だった部分は川のように水が流れ、大型船が打ち上げられて無残な姿をさらしていた。

東松島市役所裏のコミュニティセンターで、保存会のお二人から話をうかがう。おそらく、被災地訪問で出会った方々の中で、最も打ちひしがれ、魂が抜けたようになっていたのが彼らだったのではないかと思う。

獅子頭修理に至るまで

「獅子舞をやるなんて考えられない」とおっしゃっていた保存会の方々が、一転、獅子舞を復活させたいと動き始めたのは、それから1ヶ月後のことである。当方へは8月後半に、東松島市教育委員会の赤澤氏を通して、獅子頭修理の相談がきた。

獅子頭の修理にあたって、修理を手がける方を探すことと修理資金を調達することが前提だった。幸いにして、修理は私の職場である富山大学芸術文化学部の林暁先生にお引き受けいただくことができた。林先生は漆芸作家であるとともに、曳山の修理の監修等もなさってこられた。獅子頭というまでもなく、お御輿や曳山などの祭具は、そもそも、大切にされると同時に、祭りではわざと乱暴に扱われるものである。林先生には、工芸品としてだけでなく、祭具のこうした特性に対して理解をもって、修理方法を考えていただいた。さらに、幸いなことに、東松島市教育委員会の赤澤氏と宮城県教育庁の小谷氏のご尽力により、日本財団の東日本大震災支援事業（地域伝統芸能復興基金）から修理費用を捻出することができた。また、本報告書の作成にあたっては、富山大学教育研究基盤経費を充てた。

修理方法の検討と地域伝統芸能復興基金への申請に先立ち、最初の訪問からちょうど2ヵ月後の2011年9月20日に、学生2名を連れて東松島市を再訪した。そして、大曲獅子

舞保存会会長の伊藤氏と東松島市教育委員会の赤澤氏の立会いで、獅子頭 2 頭と獅子頭の形をした神社の柱飾り 1 頭の破損状況を記録した。記録を持ち帰り、林先生に検討いただくと共に、長柄毅一先生に顔料の成分分析を行っていただいた。その結果、獅子頭 2 頭のうち、一つは FRP 製であることが判明し、修理対象は地元で通称「ヤンキー」と呼ばれる獅子頭 1 頭に絞られた。

獅子頭修理の記録

修理は、5 月 31 日より 8 月 22 日までの約 3 ヶ月、のべ作業日数 23 日で行われた。林先生と林研究室の大学院生 3 名（田村亜佑美さん、呉帝彦さん、柳瀬香奈さん、芸術文化科学研究科 1・2 年生）が修理を行い、私と私の研究室の学部生 1 名（丸山紗和子さん、芸術文化学部 4 年生）が修理記録をとった。

修理内容については、林先生の「修理の概要」の通りである。払っても払っても獅子頭のどこからともなく溢れ出る海砂、無造作に打ち込まれた多くの鉄釘、腐ってフカフカになっている木地を相手にした作業は、根気がなければとてもできない。整形しようにも歪んだ木地と鉄板が邪魔をして、なかなかうまく整形できず、なんども試行錯誤した。瓦礫にしか見えなかったヤンキーが「獅子頭」に見えるようになるまで、1 ヶ月以上かかった。

保存会からの要望は、ヤンキーを震災のモニュメントとしたいということであったが、修理後のヤンキーにはただのモニュメント以上のメッセージが加わっている。私は、震災から 1 年以上経った現在、被災した方々の気持ちや考えが刻々と変化していくのを見てきた。これから数十年後の大曲浜の将来を見据え、生まれ変わったヤンキーがどのような意味をもち、どのように使われていくか、様々な可能性を考えながら、林先生と相談して修理を進めてきた。修理後のヤンキーは、被災前よりも丈夫な仕上がりになっており、林先生曰く、「普通に使うことが可能」な状態である。

修理が完了したヤンキーは 2012 年 9 月 13・14 日に、修理に関わった林研究室・島添研究室の全員で東松島市まで運び、大曲浜獅子舞保存会へ手渡した。未だ、仮設住宅暮らしが続く大曲浜の皆様の今後がどうなるか、まだまだ分からない部分も多いと思われる。ヤンキーが、大曲浜の皆様の希望となることを願ってやまない。

最後に、修理いただいた林研究室の皆様、保存会との仲介に立っていただき、修理費用を捻出いただいた東松島市教育委員会の赤澤様を始めとし、諸先生方、先輩方に深謝したい。

獅子頭に使用されていた顔料の分析

長柄 毅一

1. はじめに

獅子頭の塗装の復元修理のため、表面の赤色塗膜を分析し、どのような塗料が用いられていたのかを考察した。

2. 分析方法

分析に供した試料は、獅子頭から採取した赤色の塗膜片である。採取場所を変えた 2 種 (No.1、No.2) について分析した。図 1 に試料の外観を示す。No.1 は試料が劈開しており塗膜の内部の情報が得られる。No.2 はフラットな表面形態であり、ほぼ塗膜表面の情報を得ることができる。なお、分析は蛍光 X 線分析法により行った。これは、試料表面に X 線を照射し、そこから放出される蛍光 X 線を調べることにより、なにが (定性)、どのくらい (定量) あるかを知ることができる分析方法である。ただし今回は、試料が不定形であり、含有元素が全く予測できなかったことから、定性分析のみ行った。使用した装置は、アワーズテック(株)製可搬型蛍光 X 線分析装置 OURSTEX 100FA である。X 線ターゲットは Pd であり、管電圧 35kV、管電流 1mA の条件で分析を行った。

3. 分析結果と考察

図 2 に蛍光 X 線分析データを示す。横軸は検出された X 線のエネルギー値であり、縦軸はそれらの強度を表す。図中には、それぞれのピークの X 線の種類を記載している。No.1 から検出された元素は、Ca、Ti、Fe、Zn、Hg、Pb であった。No.2 からは Ca は検出されていないがその他の Ti、Fe、Zn、Hg、Pb は検出された。なお、No.2 の図中に S の $K\alpha$ が記載されているが、Pb の $M\alpha$ の判定ミスと考えられる。

検出された元素のうち、Ca、Ti、Zn、Pb はそれぞれ炭酸カルシウム、酸化チタン、酸化亜鉛、鉛白など白色の顔料の成分と考えられる。Fe、Hg はそれぞれベンガラ (酸化鉄)、水銀朱 (硫化水銀) など朱色の顔料の成分であると考えられる。

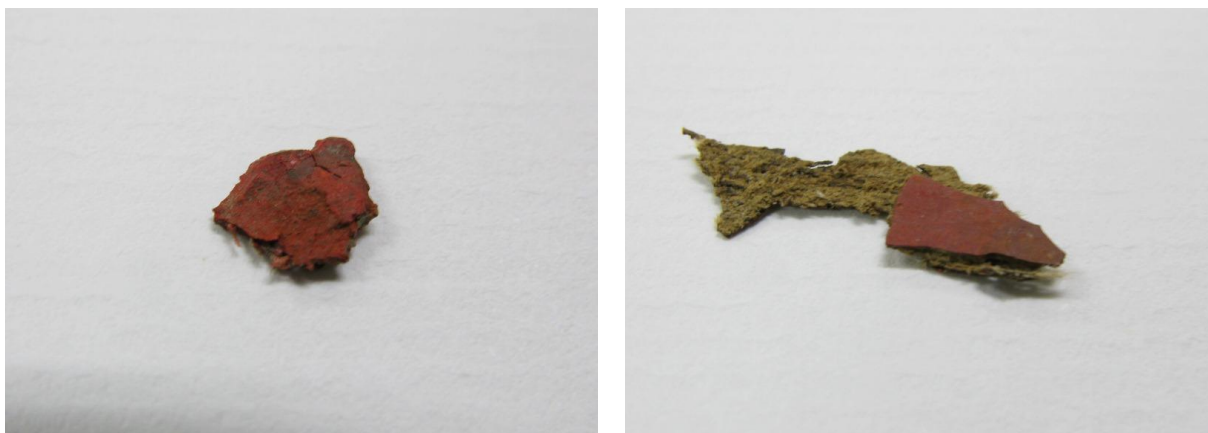
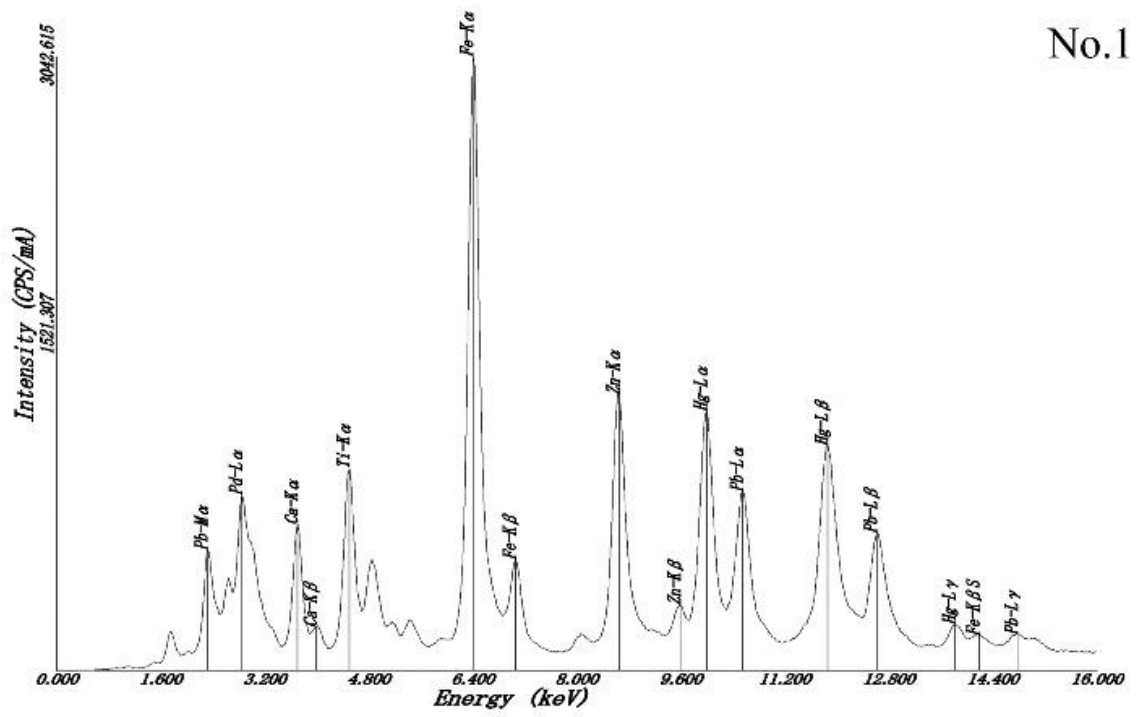
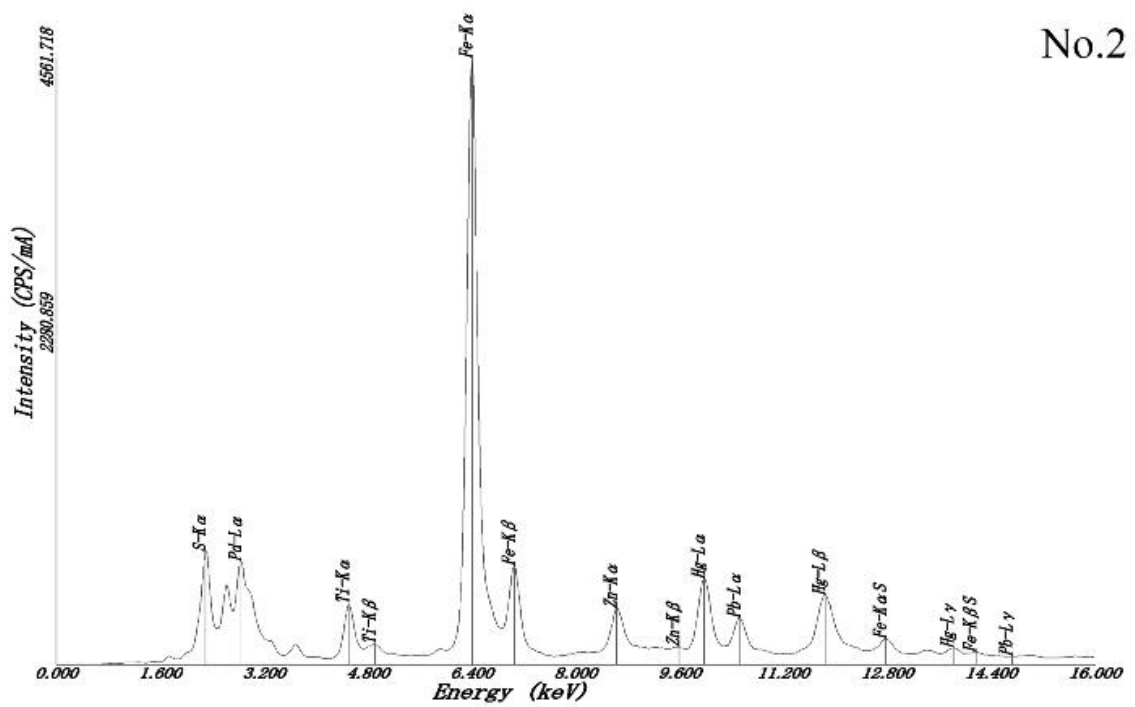


図 1 分析試料片 左 No.1 右 No.2



No.1



No.2

図2 試料の定性分析結果

修理記録

獅子頭の修理は、2012年5月31日より8月22日までの約3ヵ月、のべ作業日数23日
をかけ、富山大学芸術文化学部において行った。

修理日程は下記の通りである。

修理前の打ち合わせ

日時：2012年5月28日

場所：林研究室

1日目

日時：2012年5月31日 18:02-19:45

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、呉、柳瀬 記録者：丸山、清水（撮影）

2日目

日時：2012年6月15日 17:55-20:00

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、呉、柳瀬 記録者：丸山、島添（撮影）

3-4日目

日時：2012年6月22日 18:00-19:30／6月28日 18:00-19:00

場所：漆部屋3 室内中央の作業台／共通実習室

作業者：林先生、田村、呉、柳瀬 記録者：丸山、島添（6/22撮影）

5日目

日時：2012年6月29日 15:00-17:10

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、呉、柳瀬 記録者：島添

6-7日目

日時：2012年7月6日 15:45-17:00／7月9日 16:20-18:20

場所：漆部屋3 室内中央の作業台／共土工房（木工機械室 D-134・共通実習室 D-149）

作業者：林先生、田村、呉、柳瀬 記録者：丸山、島添

8日目

日時：2012年7月13日 15:00-17:45

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、呉、柳瀬 記録者：丸山、島添

9日目

日時：2012年7月17日 17:05-19:10

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、柳瀬 記録者：島添

10日目

日時：2012年7月19日 18:00-19:15

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、呉、柳瀬 記録者：丸山、島添（撮影）

11日目

日時：2012年7月20日 15:00-16:50

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、柳瀬 記録者：島添

12日目

日時：2012年7月25日 15:00-18:00

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、柳瀬 記録者：丸山

13 日目

日時：2012年7月30日 10:20-12:00

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、呉

記録者：田村

14 日目

日時：2012年8月2日 13:05-15:05

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、柳瀬、呉

記録者：丸山、島添

15 日目

日時：2012年8月3日 16:00-17:50

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、柳瀬、呉

記録者：丸山、島添

16 日目

日時：2012年8月6日 13:00-16:40

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、柳瀬、呉

記録者：丸山、島添

17 日目

日時：2012年8月7日 13:50-16:20

場所：漆部屋3 室内中央の作業台、共通工房（木工機械室 D-134）

作業者：林先生、田村、呉、柳瀬

記録者：島添、丸山

18 日目

日時：2012年8月8日 16:00-17:20

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、柳瀬、呉

記録者：丸山、島添

19 日目

日時：2012年8月9日 9:00-9:40/13:00-13:50

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、呉

記録者：丸山、島添

20 日目

日時：2012年8月10日 13:00-13:30

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：田村、呉、柳瀬

記録者：丸山

21-23 日目

日時：2012年8月20日 15:00-18:00／8月21日（のべ作業時間8時間）／8月22日 13:30-15:30

場所：漆部屋3 室内中央の作業台/共通工房 D-139-1 モデリング室

作業者：林先生、田村、呉、柳瀬

記録者：丸山、島添

23 日目

日時：2012年8月22日 13:30-15:30

場所：漆部屋3 室内中央の作業台

作業者：林先生、田村、呉、柳瀬

記録者：丸山、島添

修理記録は修理したその日のうちに作成し、次回の修理の際に参考資料として配布していた。この速報記録が 109 頁にのぼるため、本報告は、そこから重要な部分のみを取り出し、22 頁に約めた「ダイジェスト版」にした。元の記録は、本報告の「資料編」として別冊にした。



001 修理前の打ち合わせ

林研究室にて、梱包を解いて獅子頭を出し、修理の打ち合わせを行う。



002 分解作業（1日目）

獅子頭後部、左右耳、舌、取っ手の紐や布を取り外し、分解する。割れていた右頬も外した。



003 歪んだ右眉の取り外し

留めてある釘を金鋸で切断し、眉に残った釘も切断する。この時本体が傷つかないように金属板を当てて作業する。



004 下顎のベニヤ板を取り除く

下顎の舌の裏にあったはがれたベニヤ板を取り除く。



005 ラップとマスキングテープで頭毛、

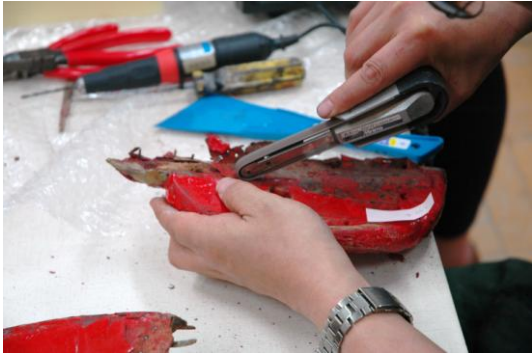
鼻毛を養生する

分解後は、頭、右頬、左耳、右眉、下顎左、下顎右、舌の7パーツになった。



006 クリーニング（2日目）

ねりゴムや湿らせた刷毛、絵筆で表面の汚れを取る。最後に綿棒で割れ目や縁の汚れをふき取る。



007 鉄板と釘の除去

左右下顎裏と右頬の鉄板をペンチではずし、釘の頭を小型ベルトサンダーで削り、平らにする。



008

鼻と口部分は、小型のダイヤモンドカッターで切断。



009 クリーニング、釘除去後



010 エポキシ樹脂の注入と含侵(3-4日目)

エポキシ樹脂(主剤:硬化剤 10:5)を細かな割れ目に注射器で注入。頭表裏、下顎、舌、耳、右眉の広い面は刷毛で含侵。



011 剥落した塗装の破片を接着する

剥落した大きな塗装の破片はエポキシ樹脂で接着する。



012 エポキシ樹脂をふき取る

てかりをなくすため、アルコールをしみこませたティッシュペーパーでエポキシ樹脂を十分にふき取る。



013 下顎の接合 (5日目)

セメダイン SG-EPO EP-007 (高はくり接着剤 主剤：硬化剤 1:1) で接合する。



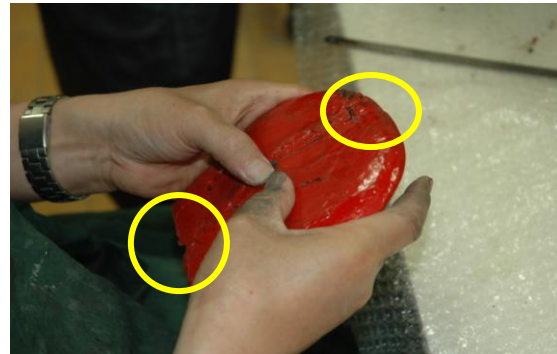
014 紐で固定

接着するまでの 24 時間、紐で固定しておく。



015 舌の接合し直し

金具 (釘、タッカー、コの字金具) を取り除き、舌を 2 つに分解する。



016 舌の接合

2 つの木片 (囲み部分) とともに EP-007 接着する。



017 頭整形用の治具制作(6-7日目)

パネルソー、横切り丸鋸盤、卓上帯鋸盤を用いて、背板、底板、支板用に木板 (厚さ 12mm) を切断し、木ねじで組み立てる。

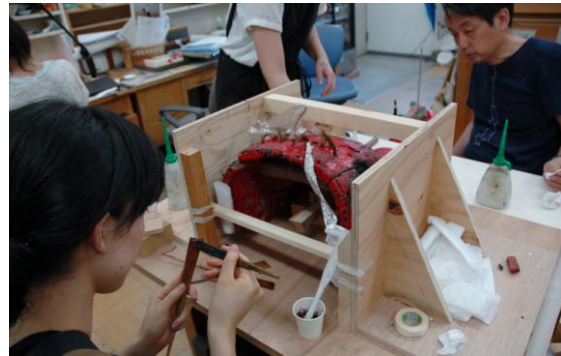


018 治具用楔・クッションの作成(8日目)

頭を治具に固定するための楔 (木製) と頭にキズがつかないためのクッション (梱包剤を薄葉紙で包む) を作る。



019 鼻左部～左目下部の矯正(9日目)
頭を治具に固定し、表側で形を整えながら裏側から楔で持ち上げ、エポキシ樹脂とアロンアルファプロ用速効多用途を注入。



020 左目下割れ部分の充填
左目下の割れはさらに、フェノールマイクロバルーン（マイクロバルーンと略す）を加えたエポキシ樹脂をヘラで充填する。



021 左目下マイクロバルーン入りエポキシ樹脂充填後（裏）
左目下の隙間が埋まっている。



022 右頬と頭の再接合（10日目）
そのままでは上手く接合しなかったため、小型ベルトサンダーやハンドルーターで釘や断面を削り、接合面を整える。



023
外側の接合面を合わせて、EP-007より柔軟性のあるセメダイン30分型（主剤：硬化剤1:1）で接合し、テープで固定。



024 右頬と頭の再再接合後
右頬と頭の接着が不安定であるため、再再接合する。この際、割れ目に沿って、右鼻を頭から取り外した。



025 取り外された右鼻
断面の木材が腐ってふかふかになっている。



0719-36 右鼻取り外し後（右目尻）
右目尻や右鼻、右髭から、木小片、布、紐、紙で穴を充填した跡が出てきた。



027 右目下半分の分離
ラジオペンチで右目下半分を留めていた釘を引き抜き、右目下半分を取り外す。



028 右目下半分



029 右鼻と右目下半分取り外し後の頭
接合面（裏）



030 右頬と頭の再接合部分が予想よりも不安定であるため、先にマイクロバルーンで充填することにする。（EP-007 よりセメダインの方がより柔軟な接着性をもつため、弱っている木材に適していると判断。セメダインを使用する。）



031 (11日目)
裏側より竹べらでセメダイン60分型にマイクロバルーンを入れた充填剤を接合部に充填する。(後で、表側から充填剤を流し込むため、裏を留めておく。)



032
ダイヤモンドカッターとラジオペンチで釘と歪んだ木片を切断し、充填剤で充填する。



033
接合部の細かな割れ部分も充填していく



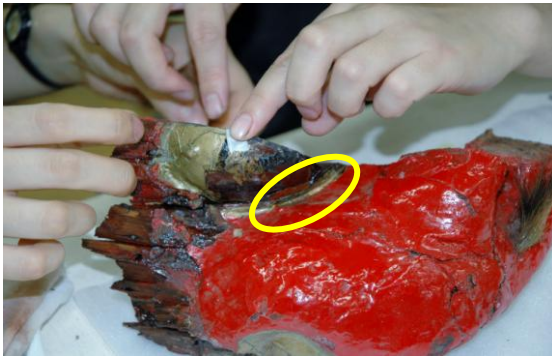
034
布ウエスにアルコールとって表面をふく。修理跡がわかるようにする処理方法。



035
右鼻と右側面の接合面の釘をラジオペンチとベルトサンダーで除去。釘は錆びておりダメになっている。



036 右鼻の割れ面の含浸
竹べらでエポキシ樹脂塗布後、アルコールで拭く。その後、右鼻と目の接合面をアセトンでふく。



037 右鼻と右目下半分の接合
マイクロバルーン入りエポキシ樹脂で接合する。右目下の破片（囲み部分）も一緒に接着する



038 右鼻と頭の接合（12日目）
ベルトサンダーで、右側面の右目との接合面と右側面裏側の剥がれた鉄板を削って接合面を合わせる。



039
右鼻と右側面との接合面をベルトサンダーとハンドルーターで削って合わせる。



040
セメダイン 30 分型にマイクロバルーンと松煙を加えた充填剤で接合する。（目の色に合わせて松煙を加え黒色にしている。）



041 余分な充填剤をヘラで取り除き、布ウエスにアルコールをとって拭いた後、充填剤が硬化するまで、力の加減がしやすいよう手で固定する。



042 頭と右鼻の接合後
右鼻と右側面の隙間が空いている状態。



043 上顎右側の取り外し
右鼻と右側面の隙間を調整するために、上顎
右側（接合した右鼻の一部）を取り外す。



044 頭後部端の鉄板を切断
鉄板は二重になっており、下の鉄板が二か所
割れている。右側の割れ目をダイヤモンドカ
ッター切断する。



045 右側面の取り外し
取っ手が釘で留まっているため、釘を抜い
て、右側面を取り外す。



046 右目付近の釘を切除
ダイヤモンドカッターで右目付近に飛び出
た釘を切り落とし、頭に再接合する。



047 右側面と頭の接合と充填
接合面の割れ目が大きいため、セメダイン
30 分型にマイクロバルーンと松煙を加えた
充填剤をヘラで充填する。



048 充填後の頭



049 (13日目)
 囲み上の接合面を合わせると囲み下の隙間が大きくなる。右側面を内側に傾ける必要がある。



050 以前接着した箇所(直線)の一番下の亀裂(鉄板下、点線)がまだ動くことが分かる。上顎右側を接着しながら、この亀裂で歪みを直す。



051 右側面の矯正
 歪みを矯正しながら小固定する。頭を縦にして固定することで、流動性の高いエポキシ樹脂が亀裂全体に樹脂を行き渡らせる。



052
 エポキシ樹脂を注射器で注入し、固定する。



053 右上顎の接合
 マイクロバルーン入りエポキシ樹脂で右上顎を頭に接合する。



054 右上顎の固定
 右上顎の歪みを、クランプとつっぱり棒で矯正しつつ治具に固定する。



055 エポキシ樹脂の注入
固定した状態で、深い亀裂にエポキシ樹脂を注入する。



056 右眉の接着
マイクロバルーン入りエポキシ樹脂で、右眉を頭に接着した後、マスキングテープで固定する。



057 右眉接合 (3日後) (13日目)



058 右側面～頭前部右側の接合 (3日後)



059 頭前部右側の接合裏側 (拡大、3日後)



060 頭裏側 (3日後)
左右側面のカーブが整う。囲みは接合作業部分。



061 後頭部端の破損した木片の接合
頭と木片の砂やゴミを刷毛で除いた後、ベル
トサンダーで削り、接合面を合わせる。



062 エポキシ樹脂にマイクロバルーンと松煙を
加えた充填剤で接着し、ヘラで余分な充填剤
を取り除き表面を整える。



063 頭左側面と取っ手の接合部の充填
取っ手接合部の割れ目にも、ヘラで充填し、
アルコールをしみこませた綿棒で表面をふ
き、マスキングテープで固定する。



064 頭右側面と取っ手の接合部の充填
震災前と思われる充填物（木片2つ）を接着
し、さらに充填剤で充填後、アルコールで表
面を拭き、表面を整える。



065 エポキシ樹脂の注入
右眉、頭上部、目鼻の割れ目、後頭部端鉄板
の浮いている部分、上顎部にエポキシ樹脂を
注入する。



066 頭を立てて、エポキシ樹脂を内部に浸透させ
る。布ウエスにアルコールを浸み込ませ、洩
れたエポキシ樹脂を拭き取る。



067 鼻充填木材の製作

鼻の破損が大きいため、木材で充填する。頭の材質は桂材と思われるため、桂材を使用する。



068

鋸、小刀、ダイヤモンドカッター、ベルトサンダーで充填木材を削って調整する。



069 鼻充填木材接着後（1日後）（14日目）

鼻孔をかたどりし、鼻先の形を整えた状態の充填木材と破損した木片をマイクロバルーン入りエポキシ樹脂で接着する。



070 上顎充填木材の製作と接着

さらに、上顎歯列の欠損部、上顎縦の欠損部、鼻右欠損部にも充填木材を製作し、マイクロバルーン入りエポキシ樹脂で接着する。



071 鼻～上顎部分（3日後）（15日目）



072 上顎歯列部分の充填木材の製作

上顎と右側面の接合部の大きな隙間にも、木材で充填する。



073 上顎歯列部分の充填

充填木材の上から、マイクロバルーンの量を増やしやや硬めにしたエポキシ樹脂で充填する。表面の高さは歯列より 2mm 低くした。



074

同じ充填剤で、右側面裏側の割れ目にもへらで奥に詰めるようにして充填する。



075 鼻部分の充填と造形 (16日目)

刻苧ペラを用いて刻苧で充填するとともに、欠損部を造形する。



076 刻苧を使った充填

鼻上部、右側面、左目下、頭上部等、大きな割れ目を刻苧で充填する。



077

エポキシ樹脂やマイクロバルーン入りエポキシ樹脂で接着、充填し、その上に刻苧でさらに充填する。



078 余分な刻苧を拭き取る

アルコールを浸み込ませたティッシュで刻苧を充填した箇所を拭き、余分な刻苧を取り除く。



079 頭表面（1日後）（17日目）



080 頭裏面（1日後）



081 色漆づくり

ベンガラに生正味（きじょうみ）漆を加え、色を調整する。



082 色漆を使ったすり漆

手製の綿棒、既成の綿棒、ふでを使って刻苧で充填した部分にすり漆をし、布で乾拭きする。はみ出た部分はアルコールで拭く。



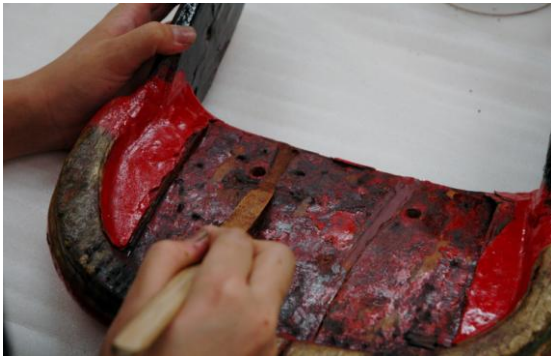
083 頭を風呂に入れる

すり漆後の頭を部屋奥の風呂に入れる。その後、鼻部分の刻苧を乾かすために空気穴をあける。



084

舌と下顎の大きな割れ目にマイクロバレン入りエポキシ樹脂で充填する。



085 (18日目)
前日、マイクロバルーンを充填した下顎、舌に、上から刻苧でさらに充填する。



086 (19日目)
頭の割れ目から出てくる砂を刷毛で取り除き、頭を立てて、砂が出る割れ目にマイクロバルーン入りエポキシ樹脂で充填する。



087 頭裏面の充填
マイクロバルーン入りエポキシ樹脂で充填し4時間後、刻苧で充填する。鉄板と木の隙間は、指で刻苧をすり込むように充填する。



088 色漆を使ったすり漆(頭、舌、下顎)(19日目)手製の綿棒と刷毛で色漆を塗布した後、布で乾拭きし、はみ出た部分をアルコールで拭き、風呂に入れる。



089 鼻(10日後)(20日目)



090 頭に植毛する
抜けた毛の根元にセメダイン30分型をつけて、ピンセットで頭に植毛する。



091 頭毛と鼻毛を整える
蒸しタオルを毛の上にかぶせて 2 分ほど蒸し、ドライヤーで整える。



092 塗料片の接着
剥落した大きな塗料片を接着する。木地の歪みで塗料片が合わなくなっているため、彫刻刀で削って調整し、接着する。



093
右目は塗料の下に金箔の痕跡が見られるため、元の状態がわかるよう、塗料片は接着しなかった。



070 右耳レプリカの作成 (20-23 日目)
檜で右耳のレプリカを作る。左耳を参考に型取りをする。



071
卓上帯鋸盤とベルトサンダーで切り出した後、小刀で外形を削り出し、丸ノミで内側を削りぬく。



072 右耳 (裏側、2 日後)
成形後、灯油で希釈した生漆を耳全体に刷毛で塗り込み、ウエスで拭き取り、風呂で乾燥させた。



正面（修理前）（11/9/20 撮影）



正面（修理後）（12/8/22 撮影）



右側面（修理前）（11/9/20 撮影）



右側面（修理後）（12/8/22 撮影）



左側面（修理前）（11/9/20 撮影）



左側面（修理後）（12/8/22 撮影）



頭裏面（修理後）



鼻（修理後）

欠損していた鼻は、充填木材、マイクロバルーン、刻苧で、木地のラインを想定し、丸みを帯びた形に造形し、充填した。



充填部分の高さは木地の高さに合わせて充填されているため、塗料の厚さ分だけ塗料表面より低い。



右目～右側面充填箇所（修理後）

木材の欠損・歪みによって、継ぎ目が合わず、隙間をマイクロバルーンと刻苧で充填した。



右眉（修理後）

眉を留めていた釘が歪み、眉自体が大きくずれていたものを眉と頭の模様とラインを合わせ、マイクロバルーンで充填した。



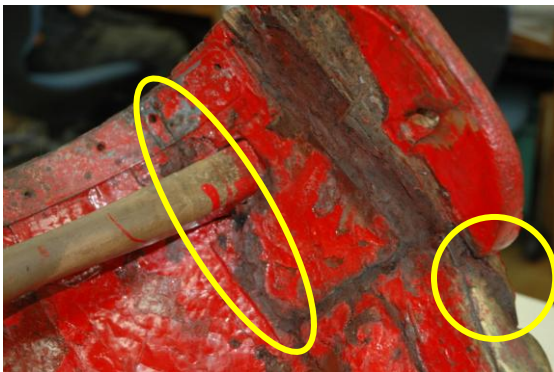
ずれていた継ぎ目もぴたりと合わせた。左右眉のバランスも整った。



割れて外れていた右側面は、裏側の鉄板と釘を取り外し、接合面を調整して、マイクロバルーンで接着した。



付箋が貼られているのが右側面から取り外した鉄板。元あった位置に当てた状態。



右側面と上顎歯列（囲み右）を接合するために、左囲み部分で右側面を取り外した。



右側面を取り外すために右後頭部の鉄板の一部をダイヤモンドカッターで切断した。



鉄板は二重になっており、下の鉄板は二か所切断されていた。それに合わせて上の鉄板を切断し、右側面を取り外した。



右側面は頭表側のラインに合わせて接合した。上顎や頭裏側に合わせると囲み部分の隙間が大きく広がったためである。



上顎裏の鉄板と木材の間にエポキシ樹脂を入れて固定し、更にマイクロバルーンと刻苧で充填した。



左側面裏の鉄板と木地の隙間2箇所から砂が大量に出てきたため、エポキシ樹脂を流し込んで固定した。



下顎表側（修理後）



被災前に割れた下顎は、左のベニヤ板で補修されていたが、被災によってベニヤ板はほとんど取れかかっていた。



二つの亀裂のうち、下の亀裂で二つに割れていた。セメダインで接着した後、マイクロバルーンと刻苧で充填した。



下顎左側面

囲み部分は被災前に内側に傾斜した状態で接がれていた。手を加えず、そのままにした。



下顎側面（修理後）



塗料が剥離している部分は、剥落しないようにエポキシ樹脂を使って留めてある。



下顎裏側（修理後）



作業のため、下顎裏に貼られていた鉄板と釘を取り外した。左は取り外された鉄板。



舌表側（修理後）

舌は釘、タッカー、コの字金具を取り除き分解した上で、セメダインで再接着し、マイクロバルーン、刻苧で充填した。



舌裏側（修理後）



右耳（レプリカ 左）、左耳（右）（修理後）
左耳はエポキシ樹脂で含浸している。右耳はレプリカであることがわかるように着色をしていない。



左右耳内側
レプリカの右耳は左耳と対称に作られている。



頭、下顎、舌、右耳、左耳（修理後）



組み立てた状態

獅子頭の修理を終えて

田村亜佑美（富山大学大学院芸術文化学研究科芸術文化学専攻 2 年）

今回は震災後の状態を保存するという事で、普段あまり経験することがない作業や素材にふれることができ大変勉強になりました。ご指導・協力していただいた先生方、地元の皆様に御礼申し上げます。

修復作業を進めていると、獅子頭には何度も修理をした跡が見つかり、地域の方々の手によって支えられてきた文化や歴史を感じました。この獅子頭の修復を通じて被災された方々のお力添えに少しでもなることができれば幸いです。

呉 帝彦（富山大学大学院芸術文化学研究科芸術文化学専攻 2 年）

私は韓国からの留学生です。2011 年の東日本の大震災をテレビやニュースでしか接したことが無かった私にとってはこの獅子頭を初めて対面した時、色々な場面が心の中で響いてすごく悲しい思いでした。震災の残酷さを間近で感じられました。被災地が早く元に戻って欲しい気持ちを持って、先生の指導に従って獅子頭の修理のお手伝いをしました。修理をしている際に東松島市の方々の心や思い出、文化や歴史も伝わってきました。何より、東松島市の皆様方が元気に獅子舞をされる姿をみたいです。

柳瀬香奈（富山大学大学院芸術文化学研究科芸術文化学専攻 1 年）

今回の修理に参加させて頂き、修理とは原物をそのまま模倣するだけではなく、物と続いてきた歴史とオリジナルの作り手を尊敬しつつも物として良いもの・美しいものを作ろうという意識を持って作業することが非常に重要なのだと学ぶことができました。ご指導下さいました林・島添両先生と東松島町のみなさまに心からの感謝と、地元に戻った獅子頭が少しでもみなさんの元気になれることを祈っております。

丸山紗和子（富山大学芸術文化学部文化マネジメントコース 4 年）

修復が終わり、獅子頭らしい形を取戻した獅子頭（通称・ヤンキー）ですが、修復の跡から被災後の割れたままの姿を思い出すことができます。「震災の記憶をここに留めよう」という思いと修復・保存の技術が両立した結果であると思っています。

今回、修復過程の記録を通して、修復の技術に初めて触れました。また、報告するための文章の書き方、写真の撮り方も実践してきました。私自身、この記録作業を通して少し成長できたと思っています。震災という形で出会いましたが、この修復作業にかかわることが出来て本当に幸せです。



宮城県東松島市大曲浜獅子舞獅子頭修理報告書

2012年12月25日 第1刷発行

編集・発行 富山大学芸術文化学部 林研究室・島添研究室
富山県高岡市二上町180 富山大学芸術文化学部